

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

2024. 10 No.195

contents

目 次

ページ

02

特集 図書館 de ボードゲーム

12

県内図書館の活動紹介

軽米町立図書館

14

レファレンスコーナー

- ・ 嫁と姑が毒で仲直りする昔話があったと思うが、どんな話だったか。
- ・ 盛岡の洋食の歴史を知りたい。

16

児童コーナー わかば通信

オリジナルのオノマトペをつくってみよう！

17

図書館掲示板

令和 6 年度巡回展のご案内

特集

図書館 de ボードゲーム

コミュニケーションや読書推進のツールとして、図書館でのボードゲーム活用が注目を集めています。令和6(2024)年現在、全国でボードゲームの貸出サービスを行っている図書館は30館を数え、「みんなで本をもちよって」など本を題材としたゲームから、動画配信サービスでも人気の人狼ゲームまで、さまざまなボードゲームイベントが図書館で開催されています。

本特集では、ボードゲームの貸出サービスを行っている図書館から、導入にあたっての経緯や装備・管理などの運用方法、イベント等での利活用など、現状の課題も含めてお話を伺いました。あわせて、当館で開催しているボードゲームイベントの様子をご紹介します。ボードゲーム導入検討の参考になれば幸いです。



《陸前高田市立図書館》 ボードゲームの利用について

導入時期：平成30(2018)年7月

利用方法：館外貸出

■ はじめに

当館では、平成30(2018)年7月から、ボードゲームの貸出を始めました。

貸出できる方は、当館の利用カードを持っている方で、貸出期間は、一人1点・3週間、さらに1週間の延長も可能です。また、館内で遊ぶこともできます。

所蔵点数は、令和6(2024)年7月現在40点となっております。



▲当館のゲームコーナー

■ 導入の経緯

さまざまな種類のボードゲームを所蔵するきっかけとなったのは、年に1度開催されている「図書館総合展」で「ボードゲーム展」という企画があったことからでした。

導入の理由として、① ボードゲームは、コミュニケーションツールとして、さまざまなコミュニティで楽しまれており、特に東日本大震災で被災した市民にとっては、一体感が生まれ、交流の場をつくるものとして活用できる、② 読書とも関連が深いものもあり、脳を活性化させるツールとしても有効であるといったことが挙げられます。

ありがたいことに、導入を考えていた時期に、復興支援でご寄贈いただける団体様がいらっしゃったことも導入の一つのきっかけとなっております。

■ 取扱い・購入について

ボードゲームを取り扱うにあたり、パーツの紛失等が懸念されましたが、当初想定していたよりも紛失件数は少なく、今のところ紛失したパーツは、厚紙などを使って手づくりで作成し、対応しています。

また、返却の際は、利用者の皆様へ、パーツが散逸しないよう、返却ポストではなくカウンターに必ず返すようお願いをしています。

購入については、定期的な購入は行っておらず、予算や利用状況・要望などを踏まえて、購入しています。選定については、公序良俗に反しないものの、一般的に人気とされているものを基準として選んでおります。

■ 貸出状況・利用者からの反応

貸出状況ですが、過去3か年で比較すると、少しずつ利用が増えております（令和3年度147点、令和4年度188点、令和5年度200点）。

また、ここ数年では、動画サイトやテレビなどでボードゲームが紹介されることもあり、利用を後押ししている背景もあります。

昨年12月には、市の広報誌「図書館だより」コーナーでボードゲームを紹介し、周知を図りました。

利用者からは、「図書館にボードゲームがあるのに驚いた」、「いろいろな種類があって面白い」などの反応が寄せられています。



▲広報誌に掲載した内容

■ 今後について

ボードゲームは、家族や友達の間だけではなく、地域やいろいろなコミュニティの親睦や交流を深めるために、まだまだ活用できる場があると思います。今後もイベントや特集展示など、さまざまな機会をとらえて活用していきたいと考えております。

（陸前高田市立図書館 担当：齊藤 彩佳）

《久慈市立図書館》 ボードゲームの活用について



導入時期：令和3（2021）年 6 月

利用方法：館外貸出、イベント開催

■ はじめに

ボードゲームを導入するにあたり、考慮が必要なことは、図書館法第2条を基準にすることだと考えます。しかし、懸念事項への対処や具体的な利点があげられず、導入を断念するというケースが多いのではないのでしょうか。当館の事例が、そ

のようなケースの手助けになれば幸いです。

当館ではボードゲームの貸出を行い、既存の資料では成せない総合的なサービスを行うため令和3(2021)年6月1日からボードゲーム貸出サービスを開始しました。

【所蔵数】

32 点 + 3 点 (イベント用カルタ)

【貸出規則】

貸出対象：個人

貸出点数：10 点 (最大)

貸出日数：2 週間 (予約がなければ 1 回のみ延長可能)

予約点数：1 点

【装備】

IC タグ・バーコードを付け、専用袋に入れる。

■ 導入にあたっての懸念事項とその対処

① 騒音問題

館内利用を想定した場合、利用場所を視聴覚室に限る等、ゾーニングによって解決ができると思います。しかし当館では、それが難しいため館内利用不可としています。さらに、資料保管をカウンターで行い、万が一の館内利用・騒音問題を防いでいます。利用者には「図1：目録」を見て資料を選んでもらいカウンターで貸出手続きをしています。

② 部品紛失

貸出時に写真付きで部品数を表記した「図2：内容物確認票」を渡し、返却時に職員が部品を確認。異常があれば早急に利用者に確認を取っています。現在まで弁償に至る部品紛失は起きていません。

③ ボードゲームへの知識

ルールは職員が体験し理解を深めています。ニーズや流行等はインターネット・本・利用者アンケートを使い情報を集めています。



図1：目録



図2：内容物確認票

■ ボードゲームのイベント事例

当館では館内利用不可にしたため、ボードゲームの持つコミュニティ形成の特性を活かすことができませんでしたが、以下のイベントを開催することでそれを補っています。参加者には、初来館という方も多く、ボードゲームを通してアウトリーチ活動や図書館資料利用促進につながっていると感じております。

【ボードゲーム体験会】

初回は導入開始同月、外部からボードゲームを借り受け、講師派遣を依頼して実施しました。2回目以降は当館職員で運営を行い、4回目以降は自館資料を使いました。大人の参加は体験会のみ見られ、親子の来館者に声を掛けた際「難しそう」と断られることが多くありました。対象年齢が低いゲームもあったのですが、参加者にとって未知のゲームが並ぶため、大人・マニア向けという印象を持たれたのではないかと考えています。

【職員 VS 利用者の対戦会】

1対1対戦/有名・簡単なルールを基準として、オセロ・将棋・ブロックス・ガイスター・Quartoを用意。職員との交流ができると好評で参加者は最多でした。しかし、参加者の待機時間が長く、連続で対戦する職員の負担も大きく交代要員を確保する必要もありました。

【『侍石』タイムアタック】

10秒間で磁力のある石が引き合わずに置ける数を競いました。担当職員はタイムキーパー1人から実施可能です。回転率もよく待機時間も短いです。

【かるた大会】

年齢別にかるたを用意して実施し、低年齢層の参加者が集まりました。

■ 今後の課題とまとめ

導入から3年経ち、貸出実績は落ち着いてきました。対処として、新規購入や登録資料を紹介する企画を検討しています。既存の資料と同じく、所蔵している資料を活かすための企画力が職員に求められていると感じています。

当館に限らず、ボードゲームの導入から時間が経過すると、当初の想定にない課題が出てくると考えます。しかし、現時点で対処のための参考事例が少ない状況です。県内にボードゲームが普及し、参考事例が増えることを期待しています。

(久慈市立図書館 担当：高屋敷 真央)

《一戸町図書館》 一戸町立図書館のボード ゲーム活用について



導入時期：令和3(2021)年9月

利用方法：館外貸出、イベント開催

一戸町立図書館では令和3(2021)年9月からボードゲームの貸出を開始しました。現在では30種類のボードゲームを所蔵しています。所蔵までの経緯やイベントの開催、抱えている課題などについて述べていきます。

■ 貸出を開始するまで

自分がもともとボードゲームに興味があったこと、ボードゲームを所蔵する図書館の事例を聞いたことから、当館でもボードゲームを所蔵できないかと提案しました。県内でも所蔵館が増えてきたこともあり、ボードゲームの所蔵が決まりました。本や他館の事例などを参考に準備を進めました。

「犯人は踊る」や「ナンジャモンジャ」など、5種類のボードゲームから所蔵をスタートしました。選択基準は、定番のゲームであることや、カード以外の内容物が少ないことです。元々郷土カル

タを所蔵していたため、カードのみのボードゲームであれば同様の方法で貸出ができると考え、カードをメインに使うボードゲームを選びました。

貸出を開始してからは、館内サインの他、HPや SNS でも周知を行いました。広く周知した結果、他県の図書館や大学生などからも問い合わせがありました。また、ボードゲームが増える度、新しくサインを作り周知しました。



▲貸出開始当初の様子

現在まで継続してボードゲームの収集を続けています。年に 6～9 作品ずつ所蔵を増やしています。これまでの貸出は、ボードゲームすべて合わせて、460 回を超えるほどです。

■ ボードゲームイベントの開催

令和 4 (2022)年 5 月に、初めてのボードゲーム体験イベントを開催しました。子どもの読書週間に合わせたイベントの一環で、定員 5 名の少人数形式で行いました。以降、毎年 5 月(子どもの読書週間イベント)と 2 月(岩手の読書週間イベント)に開催しています。

開催方法は、基本的にボードゲームの体験と、関連本の展示・紹介です。体験するボードゲームは所蔵しているもののほか、職員の私物も使います。開催の度、申込不要の自由参加コーナーを設けたり、料理や動物などテーマを決めてゲームを体験したり、参加者を集めるために工夫を重ねています。残念ながら、参加者数はあまり振るわないことが多いです。

イベントでは利用者の反応を見て、所蔵する

ボードゲームの参考にします。また、イベントごとに行うアンケートも参考にしています。



▲イベントの様子

■ 現在の課題

主な課題は ①資料の破損、②イベントの参加者数、③登録する書誌情報、の三点です。

まず①資料破損についてです。ボードゲームは性質上、カードや外箱の消耗が激しいです。特に低年齢向けのもの、人気のあるものは壊れやすくなっています。対策として、外箱は装備や補強をして強度をあげています。カードは、特に摩耗を防ぎたいゲームに限り、スリーブに入れています。対策をしても完全に破損防止ができるわけではないため、消耗品としてある程度の割り切りも必要かと思っています。

②イベントの参加者数についてです。ボードゲームイベントの実施は定着してきたと感じますが、なかなか参加者数が伸びません。図書館でイベントを行うだけでなく、館外でボードゲームを使った活動をやっていければと考えています。

③書誌情報についてです。ボードゲームの目録を作成するにあたり、どこまでの情報が必要かは、いまだに手探りの状態です。現在の所、販売年、販売者の他、参加人数、所要時間、対象年齢を登録しています。ボードゲーム特有の情報には、フレーバー(ゲームのテーマ・世界観)、メカニクス(ゲームのルール・仕組み)、コンポーネント(ゲームの内容物全般)などがありますが、統一された分類が存在するわけではないため、登録が難しいです。しかし、ゲームの内容をつかむため

に必要な情報であるため、他館の例やボードゲーム情報サイトなどを参考に、登録内容を見直すべきかと考えています。

■ これからの取組

所蔵を開始してから3年弱が経ち、ボードゲームの貸出やイベントは定着してきたように感じます。今後は館内のみならず、館外でもボードゲーム等を活用し、図書館の取組の幅を広げていきたいと考えています。



▲現在のボードゲームコーナー

町の防災イベントへ当館が協力した際、本の展示などの他、防災がテーマのボードゲームも活用しました。図書館ができるアプローチの一つとして、ボードゲームという選択肢を持ち、活用していきたいと考えています。

(一戸町立図書館 担当：下村 菜月)



《岩手県立図書館》 私と図書館とボードゲーム

導入時期：令和5(2023)年8月

利用方法：イベント開催

もともと私は、図書館に勤めるようになる以前から趣味でボードゲームを楽しんでおり、十年くらい前から地元・青森県のボードゲームサークルに参加していました。その頃はまだ、ボードゲー

ムは一部の愛好家が遊ぶものというイメージがあり、プレイ人口はそこまで多くありませんでした。しかし、近年のボードゲームブームで一気に認知度が上がり、大型量販店や本屋に売り場が設けられるなど、新たなお茶の間の娯楽として定着するようになりました。

■ 図書館とボードゲーム

そんなブーム只中の平成29(2017)年、地元の図書館でもボードゲームイベントが開かれることになりました。参加してみると、いつもは静かな図書館でたくさんの人がテーブルを囲みボードゲームを楽しんでいます。それまで見たことのなかったその光景は、普段は本を借りるためだけに来ていた自分の中の図書館のイメージを大きく変える出来事になりました。

この後に第2回が行われたのですが、縁あって図書館の方に声をかけていただき、参加者にルールを教える外部スタッフとしてイベントに関わることになりました。これが、私が携わった最初の図書館イベントになるとともに、図書館の取組みそのものに興味を持つきっかけとなりました。

■ ボードゲーム講習

岩手県立図書館でも、自分の経験からボードゲームの活用によるコミュニケーションツールとしての効果を知ったもらおうと、新たなイベントを企画し提案しました。

開催にあたって他スタッフの協力も必要となるのですが、ほとんどがボードゲーム未経験者の



ボードゲーム講習の様子

ため、まずは、全スタッフを対象としたボードゲーム体験講習会を実施しました。

開催当日をイメージし、グループに分かれたのですが、どのテーブルでも楽しく遊んでもらうことができ、一言では説明しきれないボードゲームの魅力を、実際に感じてもらえた手応えがありました。

■ 初めての開催

初めてのボードゲームイベントは、児童コーナーの閲覧スペースを借りて開催しました。研修室や会議室ではなくオープンな場所を利用することにしたのは、ボードゲームをよく知らない人にも気軽にゲームを体験してもらいたかったからです。事前申し込みも不要としました。そのおかげか、初回ながら多くの方に参加していただき、盛況と呼べる賑わいを見せていました。



児童コーナーでの開催の様子

一方で、開催にあたって気になる点もありました。そのひとつがやはり、ゾーニングの問題です。イベント開催中は、通常の閲覧席利用ができなくなり、ゲームの盛り上がりでどうしても賑やかになってしまふことがあります。読書や調べものを目的に来館した利用者を妨げず、イベント参加者同士も気兼ねなくゲームでコミュニケーションが取れるような場所があればと感じました。

会場を再検討していた折、岩手県立図書館内に新たに「I-ルーム」というスペースが開設されました。復興や防災の学び合いスペースで、災害に関する調べ学習の他、アクティブラーニングやワークショップに活用できるようになっていま

す。ここは場所が奥まっているため声が響きにくく、また、学習を通じての交流や話し合いが目的のひとつとなっていることから、求めていた条件に合うことから、2回目以降はこのスペースで開催することにしました。



I-ルームでの開催の様子

■ 現在の開催の様子

会場に用意したゲームは、「6～7歳以上」「8～10歳以上」といった対象年齢や、「アクション」「運と戦略」といったジャンルごとに区分けして並べ、子どもや初めての方に、ゲームを選ぶ際の参考になるようにしました。I-ルーム開催に合わせて、防災がテーマのゲームも用意しました。



ゲーム置き場の様子

おひとりでの参加でも対応できるよう、スタッフが同席したり、他の参加者と相席をお願いしたりすることもありました。初対面同士でも、気さくに会話が交わされており、こういったコミュニケーションが生まれるところが、ボードゲームならではの特長だと思います。

このイベントで、ボードゲームに興味を持った

という、ボードゲーム未経験の方にもたくさん参加していただきました。初めて体験するゲームでも「面白かった」「家でもやってみたい」と喜んでいただき、ボードゲームイベントの開催効果を感じました。

■ 最後に

元々は自分で楽しむために始めた趣味のボードゲームですが、イベントで参加者の方と卓を囲むうちに、人と人を繋ぐツールとしての有用性を改めて実感するようになりました。また、コミュニケーションツールとして優れているボードゲームを利用し、参加者同士が交流し楽しめる場として、図書館は最適であると感じています。普段から図書館を利用している方、そして図書館に來たことがない方にも、図書館の新しい一面を知っていただけるよう、今後も継続して続けていきたいと考えています。ボードゲームイベントの開催のご参考にしていただければ幸いです。

(岩手県立図書館 担当：相馬 匠吾)



世代を問わず楽しめるツール、それがボードゲーム

ゲームを楽しみながら 郷土に親しもう！

盛岡三大麺お食事メモリーゲーム

じゃ冷わん [hacotoki]

盛岡三大麺を題材としたカードゲーム。
盛岡冷麺・じゃじゃ麺の具材やわんこそばの描かれた「具材カード」を神経衰弱の要領でめくり、セットになるように集めていきます。それぞれの麺の特徴を活かしたセット条件やルールで、ゲームを楽しみながら地域の食文化に親しむことができます。

[X・Instagram] @hacotoki

プレイ人数：2～4人

所要時間：10～20分

対象年齢：6歳から



参考情報

図書館におけるボードゲームの導入や運用の参考になる資料・サイトをご紹介します。

- ・『図書館とゲーム』井上奈智／著 高倉暁大／著 日向良和／著 日本図書館協会 2018年
- ・『情報の科学と技術』71巻8号(特集：図書館とゲームのいま) 情報科学技術協会 2021年
- ・『図書館雑誌』118巻8号(特集：図書館における「ゲーム」) 日本図書館協会 2024年
- ・大村ひより・池谷のぞみ「公共図書館におけるボードゲームの提供実態」(カレントアウェアネス no.358)
<https://current.ndl.go.jp/ca2054>
- ・「図書館とゲーム部」
<https://sites.google.com/view/gamesandlibraries/>
- ・「「図書館×ゲーム」活動報告日誌」
<https://henauru.hatenablog.com/>

「あなたとまた遊びたい、 と言われるようなプレイで遊ぼう！」

ボードゲーム盛岡ラボ 代表 金田一 泰祥 さん



今回の特集にあたり、盛岡市でボードゲームの販売やイベントを行っている「ボードゲーム盛岡ラボ」代表の金田一さんから、原稿を寄せていただきました。

「あなたとまた遊びたい、と言われるようなプレイで遊ぼう！」——これは世界的に有名なゲーム「カタン」の作者が残した言葉です。ボードゲームで、誰かに繰り返し相手をしてもらうためには、勝敗に関わらず全員が満足するような試合運びが求められます。もし一人が大差で勝ち続ければ、同じメンバーでの再戦は難しくなるでしょう。単純ですが、ボードゲームの本質を表現している言葉です。

ボードゲームはこのように、他人と協調する意識の醸成の他、読解力や判断力、交渉力など総合的な思考力を養い、年齢・体力差・話の得手不得手などを問わず人と人をつないでくれる利用価値の高いツールです。単なる遊具としてだけではなく様々な活用が可能です。一つ大きな壁があります。



カタンの盤面。

カタンは運と戦術のバランスがちょうど良く、交渉も必要なゲームです。

■ 誰がルールを教える？

本は一人で楽しむことができますが、ボードゲームは相手が必要な作品が多いことに加え、まずはルールの把握が求められ、これらの条件が整わないとゲームを開始できません。説明書はおろか、多数配信されているルール説明動画も、短くまとめられていないと最後まで見てももらえない「タイパ」重視の時代です。初心者の方がボードゲームの楽しさを味わうためには、ルールの説明役が必要不可欠です。

そして、ボードゲームは仕組みが多種多様で、実際に最後まで1度プレイしてみないと、その人の嗜好に合うかどうかは分かりません。運要素が少ない思考系が好きな人もいれば、競争系より協力系が良いという人もいます。結局、色々試してみるしかないのですが、基本的に安価な商品ではないので、個人で買い揃えるのは限界があります。

近年、県内各地でボードゲーム会が開催されるようになり、低額で楽しめる場が拡大していますが、子どもや家族連れが気軽に参加できる場はまだ少なく、興味はあるけれどゲーム会への参加はハードルが高い、という方が潜在的に多くいると思われます。そこで、その穴を埋めてくれそうな存在が図書館です。

■ 今こそ図書館でボードゲームを！

図書館はボードゲームと相性が良い環境だと思います。前述の説明役の確保が課題になりますが、各地の図書館で定期的に楽しめる時間を設けることができれば、少しだけ遊んでみたい初心者層にとっては絶好の機会となり、ボードゲームがより身近な存在になるでしょう。

■ 図書館を地域コミュニティの核に！

コロナ禍をきっかけに、学校でも職場でも、他人と必要以上に接触しない風潮が生まれ、社会全体で人間関係が希薄になっていると感じます。また近年は、店員などの労働者としても外国の方を見かける事が珍しくなくなり、豊かで健全な地域コミュニティを築くためには、多様な背景を持つ人々が互いを知る必要性が今後高まっていくでしょう。ボードゲームは初対面の人でも、その距離をすぐに縮めてくれる力があり、コミュニケーションに端を発する現代社会の様々な問題解決の糸口になり得ると考えています。デジタル全盛の時代だからこそ、アナログなアイテムを取り扱う図書館が、地域の新たな交流の場としての役割を担ってくれることを期待しています。

（最後に） 目指せ世界選手権！

冒頭に触れた「カタン」は日本選手権や世界選手権が開催され、チェスやオセロなどのクラシックなゲームを除けば、世界で最も人気のある作品です。岩手でもこのゲームをもっと多くの方に楽しんでもらいたいと思い、「もりおカタン」というカタン大会を定期的で開催しています。今年5月の会では小学生から60代まで幅広い年齢層の方が40人集まり、熱戦を繰り広げました。単に勝敗を競うだけでなく、参加者が楽しみながら切磋琢磨できる場を提供することで、

いつか岩手からトッププレイヤーが出てくることを夢見ています。初心者クラスもありますので皆様ぜひお気軽にご参加ください。



令和6年(2024)5月「もりおカタン」の様子。
初対面でもとても和やかな雰囲気ゲームが進行しました。(盛岡市大通り LiRiO (リリオ) にて)

（おまけ） 最少人数でも最大人数でも楽しみ 易いおすすめゲーム

- ・カルカソンヌ
- ・ラミィキューブ
- ・ハイパーロボット
- ・ボナンザ
- ・ジオハイタワー
- ・それはオレの魚だ！
- ・九九ジャン
- ・FILLIT
- ・マイクロマクロ
- ・インディゴ
- ・ハーベスト

人数の幅があるゲームは融通が利かせやすいため、参加人数の増減しやすいイベントでもおすすめです。

ボードゲーム盛岡ラボ

デジタルデバイスに接する時間が長い子供達の遊びの選択肢をもっと広げてあげたい！ そんな思いから、令和2(2020)年12月、盛岡市大通りのさわや書店内にボードゲームコーナーを開設。カードゲームも含め新作旧作600種以上を取り扱っている。イベント出張、企業やフリースクールなどでの体験会に取り組むほか、ボードゲーム「カタンの開拓者たち」の交流大会「もりおカタン」を主催。

[X・Instagram・Facebook] @BGameMoriokalab

県内図書館の活動紹介

県内各地の図書館から特徴と活動をご紹介します

軽米町立図書館

所在地：〒028-0302 九戸郡軽米町大字軽米 8-87-1 かるまい文化交流センター内

TEL: 0195-46-4333 FAX: 0195-46-4439 Email: tosyokan@town.karumai.iwate.jp

現館建築年月：令和 5 年 12 月 延べ床面積：510 ㎡



図書の蔵書冊数： 51,257 冊 (令和 6 年 4 月 1 日現在)

年間来館者数： 3,347 人 (令和 5 年度)

年間登録者数： 1,434 人 (令和 5 年度)

開館時間	平日：午前 9 時 00 分 ～ 午後 6 時 30 分 土・日・祝日：午前 9 時 00 分 ～ 午後 5 時 00 分			
休館日	・月曜日（祝日の場合は翌平日） ・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日） ・蔵書整理期間（年 10 日以内）			
登録範囲	制限なし。ただし、町外居住者の場合は身分証明書を確認。			
貸出点数・期間		点数(点)	期間(日)	延長
	図書	10	14	可

軽米町立図書館の特徴と活動

はじめに

昭和 62 年 4 月、軽米町は「生涯学習の町」を宣言し、その中核的施設として昭和 63 年 6 月に町中心部に軽米町立図書館が開館しました。

住民の多様な学習ニーズに応えるため、町唯一の図書館としての機能充実に努めると共に、移動図書館車により館まで来られない遠方の方や施設の方々にも本を届けています。

町立図書館は、元役場庁舎（昭和 25 年建設）の木造 2 階建て洋風建築のレトロな佇まいで町民に長く親しまれた建物でした。しかし、老朽化が進み開架スペースが狭いことなどから、新しい複合型施設「かるまい文化交流センター」内に設置されることとなりました。

新館への移転

令和 5 年 12 月に開館した新しい町立図書館は、大きなガラス窓と木材を多用しており、明るい開放感と木のぬくもりを感じる館内でゆったりと過ごすことができます。また、窓際に座席をしつらえた閲覧スペースでは、ゆっくりと読書や学習をすることができます。

入り口そばに設けたリビング感覚の幼児コーナーでは、読み聞かせをしてもらい、本を広げてお家のようにくつろぐ微笑ましい子どもたちの様子が見られます。

かるまい文化交流センターは生涯学習、子育て支援、多目的ホールの機能も併せ持つ複合施設であるため、イベントに参加した方や子育て広場にきた親子連れなどが図書館にも足を伸ばし、来館者の大幅増につながっています。

興味を持ってもらうには

軽米町にゆかりのある漫画の関連書籍を、コーナーを設置してアピールしています。同作品には学校や体育館など、町内で見られる風景が度々登場するのも楽しみの一つです。聖地巡礼に訪れる県外・海外の方にも楽しんでいただけており、貸出ランキングでも上位に入っています。

毎月行うテーマ図書展は、関心を引くような本をコンパクトに集め、季節に合った本などを揃えて選びやすくしています。4 月に行ったお気に入り本の展示では、スタッフによる力作のポップも並び好評でした。



▲テーマ図書展「私の気に入り本」

読書・図書館に親しみを

子ども司書講座や学校巡回など児童・生徒にとって読書がより身近になるよう活動しています。

司書講座では、図書館の基礎や分類からカウンター業務やフィルムカバー掛け、レファレンスなどを体験し、最後は県立図書館の見学にも行きます。楽しかったからと、2 年続けて受講してくれた時は、驚きとうれしい気持ちでした。

学校巡回は各学校の図書室で、季節の装飾や本の修理などを行います。本の場所を聞かれたり、興味を持ったのかカバー掛けを手伝ってくれたりする子もいます。また、先生たちからは選書について相談を受けたり、図書まつりのお手伝いをしています。



▲フィルムカバー掛けに挑戦中

新しい図書館では、町民だけではなく近隣市町村の皆さんや遠方からの観光客を巻き込んで、本を通じた交流が一層進むように取り組んでいます。

（軽米町立図書館 担当：清藤）

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q. 嫁と姑が毒で仲直りする昔話があったと思うが、 どんな話だったか。

【キーワード】

嫁 姑 毒 仲直り 昔話

【調査プロセス】

1. 「嫁」「姑」をキーワードに参考資料を調査。
2. 昔話・民話に関する資料を調査。

【回 答】

ミステリー好きとしては、毒が出てくると事件かと思ってしまうのですが、毒殺ではなく仲直り？どんな話でしょう。

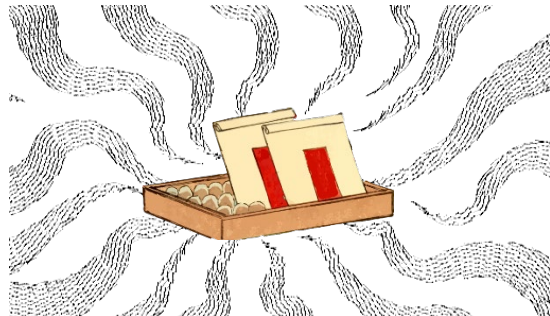
嫁と姑が出てくる話ということで登場人物から当たってみます。まずは事典を確認。『日本昔話事典』の目次から、「嫁」と「姑」の項目を確認すると「姑の毒殺」という衝撃的なタイトルを確認！話の内容は……

“仲の悪い嫁と姑がいる。嫁は姑が病気になったのを幸いに、殺そうと決心して医者のところへ行き、毒薬をくれと言う。医者は、この薬は自然に弱って死ぬ薬だから、毎日少しずつ食べさせて、できるだけ親切にするように、と教えて毒薬を嫁に与える。嫁は養生になる薬だと姑に食べさせる。姑は喜んで食べる。そして嫁の親切心に心を改め、良い姑になる。嫁は殺すのが惜しくなり、医者に毒消しの薬をもらいに行く。医者はあの毒は邪険な心を殺す毒薬だ、と言う。それから、嫁と姑は仲良くなる。”

事件ではなく愚人譚に分類される笑い話、教訓話のようです。解説文には続けて、“ほぼ全国的にその伝承が分布するが、報告例は必ずしも多くはない。”とあります。

では、その分布はどうなっているのか、別の資料も調査しました。『日本昔話大成 8:笑話 1』には島根県仁多郡の実際の民話に続けて、分布の掲載があります。嫁姑ではなく婆が爺の毒殺を目論む（和歌山県）、嫁も姑も毒殺を外部委託（長野県）、嫁が栗の多食で姑の早死を謀るも姑は栗好き（朝鮮）など……細部の違いこそあれ、日本のみならず海外にも類似する民話が伝わっていることがわかります。東北の民話を読みたいとのことでしたので、同資料の巻末に掲載された目録から、掲載資料を調査し、当館所蔵のある岩手県遠野市の『老嫗夜譚』（p.94-96「嫁の害毒」）、青森県の『手っきり姉さま』（p.222「姑と嫁」）を紹介しました。

紹介した『老嫗夜譚』『手っきり姉さま』に収録されたタイトルに違いがあったり、海外にも類型があったりと、昔話の奥深さを感じることができる事例でした。



【主な参考資料】 ※()内は当館請求記号

- ・『日本昔話事典』 稲田 浩二／〔ほか〕編 弘文堂 1978 (R388.1 /- 5 /1)
- ・『日本昔話大成 8:笑話 1』 関 敬吾／〔著〕 角川書店 1979 (388.1 /ㇿ 2 /8)
- ・『老嫗夜譚』 [辻石 谷江／述] 佐佐木 喜善／[編]著 郷土研究社 1927 (K 388 /ㇿ 1 /4)
- ・『手っきり姉さま』 能田 多代子／編 未来社 1975 (388.121 / / 1 /1)

Q.

盛岡の洋食の歴史を知りたい。

【キーワード】

丸竹 料理(西洋) 食生活-歴史

【調査プロセス】

1. 日本の西洋料理の歴史に関する資料を調査。
2. 盛岡市の食文化に関する資料を調査。

【回答】

『食卓の日本史』によると、西洋料理が日本に広まったのは明治時代のこと。明治政府が進めた近代化・西洋化は、食生活においては欧米の肉料理を受け入れることが始まりでした。仏教の影響などから肉食はなかなか普及しませんでした。明治4年(1871)以降、天皇の食事に牛肉、羊肉を使用したことや、在日外国人高官を招いた晩餐会でフランス料理を供したことが新聞で報道されると、いくつかの府県で肉食奨励の布告が出されました。これを受けて全国的に西洋料理店が開かれはじめますが、『明治西洋料理起源』によれば、その多くは明治10年代に入ってから、西日本が中心だったようです。



盛岡では、明治18年(1885)に開店した「西洋料理丸竹軒」が初めての本格的な西洋料理店であるといわれています。『続もりおか物語 河南篇(2)』や『盛岡明治大正昭和「事始め百話」』によると、^{まるたけ}丸竹の創業者・大平竹松は明治10年(1877)に開園した内丸の盛岡公園地(現在の県民会館一帯)で丸竹茶屋を営んでいました。そこへ二代目の栄次郎が東京で西洋料理を研修して戻り、茶屋の並びに西洋料理丸竹軒を開店します。“オムレット”や“ソップ(スープ)”, 種々の一品料理、コース料理を名物としていましたが、当時の人々にはなかなか馴染まず、数年後には和洋折衷型に経営転換したようです。

そもそも西洋料理は明治初期には高価で、食べることができたのは主に政財界や富裕層の人々でした。明治後期から大正にかけて、カレーライスやとんかつなど和洋折衷型の「洋食」に形を変え安価になると、庶民の間にも洋食文化が広がります。『図説盛岡四百年 下巻2』などによると、この頃に盛岡でも秀清軒、日盛軒などの洋食店が相次いで誕生しています。その後昭和に入ると、フランス料理店の公会堂多賀や、むら八などのレストランが開店し、賑わいをみせます。また、昭和11年(1936)に出版された『岩手県栄養指導書』をみると、“メリケン粉(小麦粉)”を使った蒸しぱんや“トマトピーウレー(ピューレ)の作り方”などが記載されており、家庭料理にも洋食が普及していったことが窺えます。

盛岡の洋食文化の先駆けは、平成29年(2017)に惜しまれつつも閉店した餅店・喫茶の丸竹茶屋だったという、意外なルーツが発見できた事例でした。

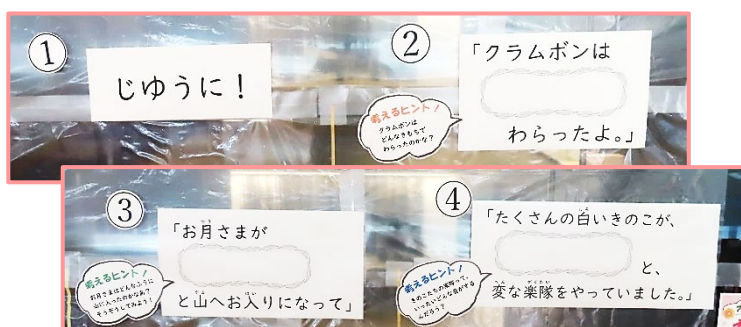
【主な参考資料】 ※()内は当館請求記号

- ・『食卓の日本史』 橋本 直樹/著 勉誠出版 2015 (383.81 /ハ)
- ・『明治西洋料理起源』 前坊 洋/著 岩波書店 2000 (383.81 /マ)
- ・『続もりおか物語 河南篇(2)』 渡辺 新一/原文 盛岡の歴史を語る会/編集 盛岡の歴史を語る会 2023 (K 211 /7タ /2)
- ・『盛岡明治大正昭和「事始め百話」』 吉田 義昭/著 郷土文化研究会 1995 (K 211 /ヨ)
- ・『図説盛岡四百年 下巻2』 吉田 義昭/編著 及川 和哉/編著 郷土文化研究会 1992 (K 211 /ヨ 1 /4-2-2)
- ・『愛しの盛岡』 道又 力/編 謙徳ビジネスパートナーズ 2018 (K 291.22 /ト)
- ・『岩手県栄養指導書』 岩手県社会事業協会/編集 岩手県社会事業協会 1936.2 (K 596 /イ 6 /1)

オリジナルの オノマトペをつくってみよう！

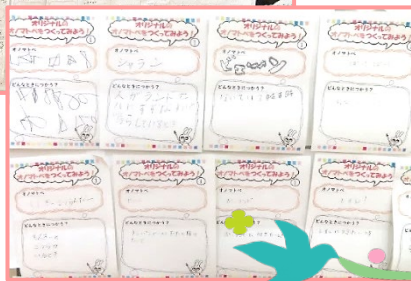
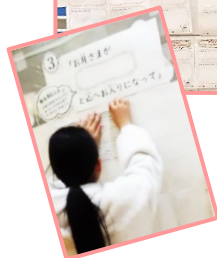
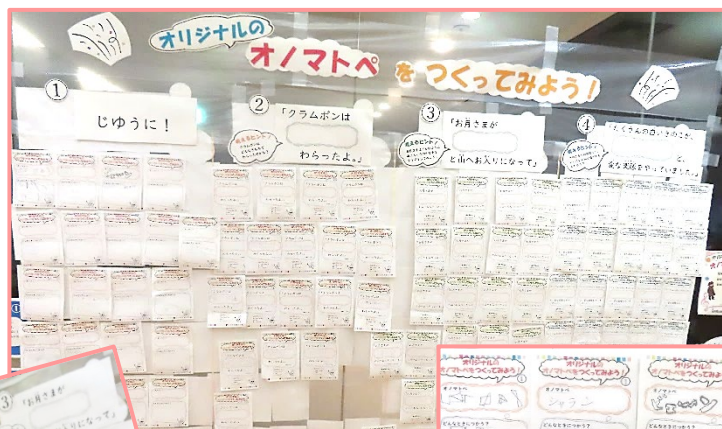
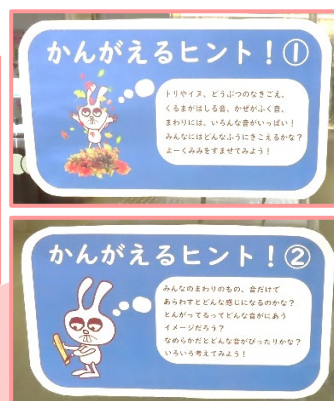


岩手を代表する童話作家、宮沢賢治。「かぷかぷ」「どっどど どどうど」など、おもしろいオノマトペをたくさん作りだした賢治さんに見習って、自分だけのオノマトペを作ってみるイベントを開催しました。



お題は全部で4種類。
自由題がひとつ、残りは賢治さんの作品を基に出題しました。
「きのこの楽隊」って、どんな音をたてるのかしら？

オノマトペとは、擬音語や擬態語のこと。考えるためのヒントも掲示して、子どもたちの自由な発想を募集します。



最終的には、大人も含め 223 件ものご参加がありました。
どの作品も個性たっぷり。
書いても読んで、とっても楽しいイベントになりました。

図書館揭示板

県立図書館からの連絡や告知をお届けします

令和 6 年度巡回展のご案内

毎年岩手県立図書館では、学習機会の提供と読書の普及奨励に資するため、過去に行われた企画展の展示資料を再構成し、申し込みのあった市町村立図書館等へ貸出を行っています。

今年度もたくさんのお申込みをいただきました。ありがとうございます。

寄せられた希望の日程を調整し、次ページからの日程で開催される予定となりました。

巡回展の開始 2 週間前には、ポスターと目録を当館のホームページの「市町村立図書館等ログイン」内「コミュニティ→ライブラリ→展示資料施設貸出（巡回展）」に投稿いたします。展示開催前の告知や配布用目録の印刷、自館の資料を合わせて展示する用意をするなど、事前の準備にご利用いただけます。

今年度の巡回展は、以下のテーマの展示を巡回します。

※手づくり絵本展につきましても、例年通り貸し出しを行う予定です。

文学賞受賞図書展

令和 5 年 6 月から令和 6 年 5 月までの間に発表された文学賞のうち、岩手県立図書館所蔵図書をまとめた展示です。県内 11 カ所を巡回します。

地を往きて走らず～岩手と牛～

人間にとって身近な動物である牛。古くは塩や海産物を背負って歩いた南部牛、現代ではブランド牛や酪農の取り組みなど、岩手の文化や産業も牛とともにあゆみを重ねてきました。岩手と牛の関わりについて紹介する展示です。県内 19 カ所を巡回します。

おかし・いとおかし

いにしえより人々に愛されてきたお菓子。岩手では、郷土料理のひとつとして地域の特色あるお菓子が数多くあります。お菓子の歴史や郷土のお菓子について紹介する展示です。県内 22 カ所を巡回します。

啄木資料展

過去 2 年間に岩手県立図書館が新たに収集した石川啄木関連図書の展示です。県内 6 カ所を巡回します。

『文学賞受賞図書展』展示資料貸出期間一覧表

No	貸出期間				貸出施設名	移送期限	移送先
1	2024年	10月 25日 (金)	～	11月 3日 (日)	盛岡市浜民図書館	11月 7日 (木)	洋野町立種市図書館
2		12月 6日 (金)	～	12月 15日 (日)	洋野町立種市図書館	12月 19日 (木)	紫波町図書館
3		12月 20日 (金)	～	1月 5日 (日)	紫波町図書館	1月 9日 (木)	花巻市立花巻図書館
4	2025年	1月 10日 (金)	～	1月 19日 (日)	花巻市立花巻図書館	1月 23日 (木)	花巻市立大迫図書館
5		1月 24日 (金)	～	2月 2日 (日)	花巻市立大迫図書館	2月 6日 (木)	岩泉町立図書館
6		2月 7日 (金)	～	2月 16日 (日)	岩泉町立図書館	2月 20日 (木)	山田町立図書館
7		4月 18日 (金)	～	4月 27日 (日)	山田町立図書館	5月 1日 (木)	釜石市立図書館
8		5月 16日 (金)	～	5月 25日 (日)	釜石市立図書館	5月 29日 (木)	久慈市立山形図書館
9		5月 30日 (金)	～	6月 8日 (日)	久慈市立山形図書館	6月 12日 (木)	花巻市立石鳥谷図書館
10		6月 13日 (金)	～	6月 22日 (日)	花巻市立石鳥谷図書館	6月 26日 (木)	大槌町立図書館
11		6月 27日 (金)	～	7月 6日 (日)	大槌町立図書館	7月 10日 (木)	岩手県立図書館

『地を往きて走らず～岩手と牛～』展示資料貸出期間一覧表

No	貸出期間				貸出施設名	移送期限	移送先
1	2024年	8月 30日 (金)	～	9月 8日 (日)	花巻市立花巻図書館	9月 12日 (木)	岩泉町立図書館
2		9月 13日 (金)	～	9月 22日 (日)	岩泉町立図書館	9月 26日 (木)	野田村立図書館
3		9月 27日 (金)	～	10月 6日 (日)	野田村立図書館	10月 10日 (木)	花巻市立東和図書館
4		10月 11日 (金)	～	10月 20日 (日)	花巻市立東和図書館	10月 24日 (木)	八幡平市立図書館
5		10月 25日 (金)	～	11月 3日 (日)	八幡平市立図書館	11月 7日 (木)	大槌町立図書館
6		11月 8日 (金)	～	11月 17日 (日)	大槌町立図書館	11月 21日 (木)	奥州市立江刺図書館
7		11月 22日 (金)	～	12月 1日 (日)	奥州市立江刺図書館	12月 5日 (木)	山田町立図書館
8		12月 6日 (金)	～	12月 15日 (日)	山田町立図書館	12月 19日 (木)	一関市立藤沢図書館
9		12月 20日 (金)	～	1月 5日 (日)	一関市立藤沢図書館	1月 9日 (木)	花巻市立石鳥谷図書館
10	2025年	1月 10日 (金)	～	1月 19日 (日)	花巻市立石鳥谷図書館	1月 23日 (木)	矢巾町図書センター
11		1月 24日 (金)	～	2月 2日 (日)	矢巾町図書センター	2月 6日 (木)	紫波町図書館
12		2月 7日 (金)	～	2月 16日 (日)	紫波町図書館	2月 20日 (木)	久慈市立山形図書館
13		2月 21日 (金)	～	3月 2日 (日)	久慈市立山形図書館	3月 6日 (木)	二戸市立図書館
14		3月 7日 (金)	～	3月 16日 (日)	二戸市立図書館	3月 20日 (木)	一戸町立図書館
15		3月 21日 (金)	～	3月 30日 (日)	一戸町立図書館	4月 3日 (木)	久慈市立図書館
16		4月 4日 (金)	～	4月 13日 (日)	久慈市立図書館	4月 17日 (木)	釜石市立図書館
17		4月 18日 (金)	～	4月 27日 (日)	釜石市立図書館	5月 1日 (木)	花巻市立大迫図書館
18		5月 16日 (金)	～	5月 25日 (日)	花巻市立大迫図書館	5月 29日 (木)	洋野町立種市図書館
19		7月 11日 (金)	～	7月 20日 (日)	洋野町立種市図書館	7月 24日 (木)	岩手県立図書館

『おかし・いとおかし』展示資料貸出期間一覧表

No	貸出期間				貸出施設名	移送期限	移送先
1	2024年	11月 22日 (金)	～	12月 1日 (日)	花巻市立東和図書館	12月 5日 (木)	宮古市立図書館
2		12月 6日 (金)	～	12月 15日 (日)	宮古市立図書館	12月 19日 (木)	久慈市立山形図書館
3		12月 20日 (金)	～	1月 5日 (日)	久慈市立山形図書館	1月 9日 (木)	野田村立図書館
4	2025年	1月 10日 (金)	～	1月 19日 (日)	野田村立図書館	1月 23日 (木)	葛巻町公民館図書室
5		1月 24日 (金)	～	2月 2日 (日)	葛巻町公民館図書室	2月 6日 (木)	盛岡市渋民図書館
6		2月 7日 (金)	～	2月 16日 (日)	盛岡市渋民図書館	2月 20日 (木)	奥州市立江刺図書館
7		2月 21日 (金)	～	3月 2日 (日)	奥州市立江刺図書館	3月 6日 (木)	山田町立図書館
8		3月 7日 (金)	～	3月 16日 (日)	山田町立図書館	3月 20日 (木)	大槌町立図書館
9		3月 21日 (金)	～	3月 30日 (日)	大槌町立図書館	4月 3日 (木)	八幡平市立図書館
10		4月 4日 (金)	～	4月 13日 (日)	八幡平市立図書館	4月 17日 (木)	花巻市立花巻図書館
11		4月 18日 (金)	～	4月 27日 (日)	花巻市立花巻図書館	5月 1日 (木)	矢巾町図書センター
12		5月 2日 (金)	～	5月 11日 (日)	矢巾町図書センター	5月 15日 (木)	花巻市立石鳥谷図書館
13		5月 16日 (金)	～	5月 25日 (日)	花巻市立石鳥谷図書館	5月 29日 (木)	釜石市立図書館
14		5月 30日 (金)	～	6月 8日 (日)	釜石市立図書館	6月 12日 (木)	北上市立和賀図書館
15		6月 13日 (金)	～	6月 22日 (日)	北上市立和賀図書館	6月 26日 (木)	岩泉町立図書館
16		6月 27日 (金)	～	7月 6日 (日)	岩泉町立図書館	7月 10日 (木)	久慈市立図書館
17		7月 11日 (金)	～	7月 20日 (日)	久慈市立図書館	7月 24日 (木)	紫波町図書館
18		7月 25日 (金)	～	8月 3日 (日)	紫波町図書館	8月 7日 (木)	一戸町立図書館
19		8月 8日 (金)	～	8月 17日 (日)	一戸町立図書館	8月 21日 (木)	花巻市立大迫図書館
20		8月 22日 (金)	～	8月 31日 (日)	花巻市立大迫図書館	9月 4日 (木)	洋野町立種市図書館
21		9月 19日 (金)	～	9月 28日 (日)	洋野町立種市図書館	10月 2日 (木)	二戸市立図書館
22		10月 3日 (金)	～	10月 12日 (日)	二戸市立図書館	10月 16日 (木)	岩手県立図書館

『啄木資料展』展示資料貸出期間一覧表

No	貸出期間				貸出施設名	移送期限	移送先
1	2025年	2月 21日 (金)	～	3月 2日 (日)	九戸村公民館図書室	3月 6日 (木)	岩泉町立図書館
2		4月 4日 (金)	～	4月 13日 (日)	岩泉町立図書館	4月 17日 (木)	洋野町立種市図書館
3		4月 18日 (金)	～	4月 27日 (日)	洋野町立種市図書館	5月 1日 (木)	大槌町立図書館
4		5月 16日 (金)	～	5月 25日 (日)	大槌町立図書館	5月 29日 (木)	盛岡市渋民図書館
5		5月 30日 (金)	～	6月 8日 (日)	盛岡市渋民図書館	6月 12日 (木)	山田町立図書館
6		7月 11日 (金)	～	7月 20日 (日)	山田町立図書館	7月 24日 (木)	岩手県立図書館

岩手県立図書館報

としょかん いわて

No.195

発行日 令和6年10月6日

編集・発行 岩手県立図書館